

# ふるさとわがまちづくり

## 田柵町自治区

### ◆「田柵町の紹介」

豊田市の西部に位置する田柵町は、日進市・愛知郡長久手町・と西加茂郡三好町に境を接し、県道58号線沿いの田畑に家が点在する緑豊かな町です。

「田柵」とは、文字通り田んぼに稲穂が豊かに実るという意味だと思われませんが、この地には、次のような民話が語り継がれています。

「今から、600年ほど前、世の中が乱れ、戦がたびたび起こっていたころのことです。加納歳武知(さいむじ)という武士が、戦に負けてこの村にやってきました。彼は武士と言う身分を捨てて、お百姓になって働こうと心に決め、毎日朝早くから夜遅くまで、一生懸命に荒れた野山を開墾し、田畑を作りました。

ある日のことです。歳武知が、いつものように、朝早くから田んぼに出て耕作に励んでいると、東の空が明るくなり始めるころ、どこからか鶏の鳴き声が聞こえてきました。不思議に思って林の中へ入ってみると、木の下の大きな石がしきりに時を告げるように鳴いているのです。

大きな石が鳴いたという話は、すぐに村中に広がりました。何とかしてその不思議な鶏の声を聞きたいものだと、村人たちも早起きをするようになりました。

こうして東の空が白むころには、村人はみな田んぼに出て、鳥の鳴き声を聞きながら一生懸命働くようになり、村中の



田んぼに豊かに稲穂が実り、いよいよ村が栄えていきました。」

今も、県道沿いに、10トンほどの大きな石があり、「鶏石(にわとりいし)」と呼ばれています。また、この加納歳武知さんの末えいか、町内83戸の半数に近い40戸が加納の姓を名乗っています。かつて、山仕事や築城作業の際に歌われていたというこの地方の民謡“ざんざ節”にも次のように歌われています。

“ここは田柵か 鶏石か チョイトザンザ コリヤザンザ 鶏(とり)もおらぬのに時(ときよ)告ぐる……………”

昔からの農業の他に、鉱業や工業もこの地の産業としてあげられます。特に鉱業では、田柵の山からは、良質の珪砂が長年採掘されてきました。これはガラスの原料として、瀬戸・岐阜方面へ大量に運ばれています。近年、北部の丘陵には工業団地も建設されました。

三好カントリークラブやトヨタスポーツセンター等の大きなスポーツ施設に隣接し、まだまだ緑が色濃く残る静かな生活環境の中、夏の盆踊り・秋の大祭等町の行事も年々盛んに取り組まれています。



鶏石(にわとりいし)



近年、町民の総意で田柵神明社の造営・林光寺の改修も始まりました。時代の流れの中で、変化がないといわれた田柵町も、少しずつ変わってきています。その中で、美しい自然等、変えたくないもの・守るべきものをしっかり守って豊かな町を作っていきたいものです。

### 田柵町自治区示一々

(H21.4現在)

設立：昭和42年  
世帯数：83世帯  
：75世帯(昭和54年)  
組数：6組  
面積：3,827K㎡  
自回覧：月2回  
ちびっ子広場：1箇所  
ふれあい広場：1箇所  
防犯灯設置箇所：90箇所  
小学校：伊保小学校区  
自治区会館：田柵公民館